520メーターと、幅員を12メーターで、総事業費3億円を予定して、平成21年度から事業に入りたいと考えております。平成21年度に、地質調査、路線の測量、橋りょう、道路の設計、平成22年度は、橋りょうの下部工、河川の護岸工事、平成23年度は橋りょうの上部工を予定しております。予算のつき次第では、できるだけ早く完了を見たいという思いがあります。

山政研　関連質問

加藤　忠勝　議員

●定額給付金にかかわるプレミアム付きお買物券について

Q　プレミアム付きお買物券は、商工会が所管となると思いますが、せっかくの機会ですので、市民が使い勝手のよいことと商工会会員の拡充を考慮し、参加店の増加に市が積極的に関与するのか。

A　経済環境部長　プレミアム付きお買物券の取扱店の募集は、商工会や市のホームページ等で会員以外にも募集する予定でございます。これを機会に商工会の充実を図るため、商工会加入促進を市としても協力できるものから実施してまいります。

Q　発売スケジュールは、どうなっているのか。

A　経済環境部長　市の定額給付金交付事務の進捗状況を勘案して進めてまいりたい。

Q　プレミアム付きお買物券について、これを機会に毎年実施してはどうか。

A　市長　次年度以降に継続するかどうかについては、今回のプレミアム付きお買物券が市内の商業の活性化・景気対策にどのような効果があったのかという検証が、当然、商工会としても行うと思います。市の経済に活性化をもたらしたという顕著な効果があれば、当然市民の理解も得られると思う。それにより効果があれば、これは続けていくと考えていきたいと思います。

Q　検証の時期をいつと考えているのか。

A　市長　このお買物券の期限が半年ですので、その半年ぐらいであれば、急いで分析がされれば、反映できると考えている。

平成会　代表質問

能勢　秋吉　議員

●予算概要について

Q　平成21年度予算編成方針をお聞かせ下さい。

A　市長　基本としている身の丈予算を継続し、限られた財源の有効な活用を図り、簡素で効率的な筋肉質の行財政システムの構築を進めるとともに、地方分権推進委員会第一次勧告、また、国の平成21年度概算要求方針で求められる地方の役割を推進するため、予算の分権化を進め、プラン・ドウ・シーという循環サイクルの着実な実施に向け、施策別予算編成を導入し、財政調整基金の繰入目標を8億円に設定し、総合計画施策体系に合わせた資源配分と主管課の役割の明確化を進め、施策別予算編成の確立を目指すということです。また、国からの交付金、合併特例債を活用し、学校施設の耐震化を前倒して実施するため、耐震性に問題のある小学校3校の屋内運動場の設計・積算業務を計上することにより、早期に学校間の施設の不均衡の是正を図り、安全性を確保するとともに、(仮称)さんぶの森交流センターの整備、松尾庁舎の耐力度不足問題を解消するための改築・解体の設計業務などを予算化し、将来の山武市のまちづくりの拠点として地域バランスを考慮しながら、整備・検討しているところです。

Q　最重要課題は何と捉えていますか。

A　市長　合併以後、さまざまな資金の要求がありますが、私としては、必要欠くべ駆らざる投資については行って行くということが最重要な課題と思っています。

Q　合併特例債について、山武市の発行限度額が建設事業分で256億9千万円、山武市の計画額では107億6千万円、この数字で間違いないか確認します。

A　財政課長　この数字で間違いありません。

Q　合併特例債は70％が地方交付税に算入されることは間違いありませんか。

A　財政課長　現在の制度の中では、元利償還金の70％が交付税に算入されることになっています。

Q　平成21年度予算に特例債を適用する事業名をお聞かせ下さい。

A　財政課長　(仮称)さんぶの森交流センター整備事業5億640万円・道路新設改良事業(殿台下町線)1900万円・防災行政無線整備事業2億1630万円・成東東中学校整備事業等合計で10億8760万円・基金造成で、地域振興基金のほうに7億2760万円です。

●成東駅ホーム延伸工事について

Q　進捗状況はどうでしょうか。

A　市長　JRも今は民間の企業であるということで、まず採算にのるか、のらないかというところが、投資をするかしないか決め手になるということです。その一番のもとになるのが乗降客数であり、成東駅の乗降客数に必ず触られて、ホーム延伸についての前向きな答えを頂くことについては、かなり難しい状況にあります。

Q　JRに山武市としての取り組み姿勢を見せる必要があると思います。八街市・山武市・JRと協議し、工事の設定年度の目標を定めて、基金の積立をしたらどうでしょうか。

A　市長　質問は受けて、関係する市と検討するよう指示します。

●交通安全対策について

Q　小学生が登校、下校する道路で、歩道のある主要道路は非常に少なく危険と思われますが、どうでしょうか。